

水戸八景ツーリング

SIGHTSEEING MITO 8

～斉昭公の思いを風に～

「桜田門外ノ変」の時代の水戸藩九代藩主、徳川斉昭公が選定した「水戸八景」を自分のペダルを踏んで巡り、景勝地の歴史的背景などに触れることで茨城の昔と今を深く味わってみませんか。



開催日 平成20年10月18日(土)

水戸八景

天保4(1833)年、水戸藩九代藩主、徳川斉昭公は、中国湖南省の「瀟湘八景」にならい、水戸藩領内の景勝地を巡視し8ヶ所を選びました。これらを「水戸八景」とし、それぞれの場所には、斉昭公の筆による文字を刻んだ石碑が建立されています。水戸八景設定の大きな目的は、藩内の子弟に八景めぐりをすすめ、自然観賞と心身の鍛錬とを図るためと伝えられています。水戸八景と聞くと、現在の水戸市内のみと考えてしまいがちですが、常陸太田市や東海村、ひたちなか市、大洗町、茨城町等を含む「水戸藩領内」であることに歴史を感じます。各地に残る石碑は、訪れる人々に往時の詩境をしのばせています。

④太田の落雁 (常陸太田市)

常陸太田市栄町の台地の東斜面に建っています。周囲は住宅地ですが、昭和初期に「真弓千石」と名付けられた里川の谷と真弓山の展望は格別です。

③山寺の晩鐘 (常陸太田市)

西山研修所裏にある石碑は、源氏川の谷を隔てて市街地の台地を一望。「太田落雁」同様、天保5(1834)年の建立で、4文字の頭の字は古典文字で刻まれています。

②青柳の夜の雨 (水戸市)

日本武尊が東征の際にまつたといわれている鹿島香取神社の境内に建つ石碑。那珂川のほとりに位置し、独特の眺望が望めるところです。

①仙湖の暮雪 (水戸市)

梅で有名な借楽園は日本三名園の一つ。その借楽園の南崖に建つ石碑が「仙湖暮雪」です。周辺が都市公園として整備され、現代ならではの美しい景観が望めます。



⑤村松の晴嵐 (東海村)

日本三虚空蔵の一つで、特に十三詣りの参拜で知られる村松山虚空蔵堂。本堂の裏手の丘に「村松晴嵐」の碑が建っています。海へと続く白砂青松の景観が見事です。

⑥水門の帰帆 (ひたちなか市)

旧那珂湊市役所(現・ひたちなか市那珂湊総合支所)裏の整備された場所に大きな石碑があります。太平洋と眼下の活気ある漁港の眺めが雄大です。

⑦岩船の夕照 (大洗町)

親鸞上人画像、阿弥陀如来立像など多くの県指定文化財を保管する願入寺。その裏手に石碑があります。那珂川と濁沼川の合流点に臨む台地上からの眺望は雄壮です。

⑧広浦の秋の月 (茨城町)

茨城町、濁沼の出口にのびた砂洲に建っています。この砂洲は米州といい、天の橋立状の地形であるため、学術的には価値の高いものとされています。

※コース概要
全行程約100km